

## 人間ドックにおいて胃がんリスク層別化検査（ABC分類）を受けた受診者の胃がん検診受診行動の実際

公益財団法人宮城県対がん協会 がん検診センター

○高橋 尚美、齋藤 千晴、盛田 美樹、只野 敏浩、千葉 隆士、加藤 勝章、渋谷 大助

**【目的】**当センターでは平成23年度より人間ドックのオプション検査として、血清Hp抗体検査とPG法併用による胃がんリスク層別化検査(ABC分類)を導入した。但し、H28年度まで血清Hp抗体値は旧基準値(10U/ml以上陽性)としている。その後、胃がんリスク層別化検査を受けた受診者の胃がん検診の受け方に対する意識変化についてアンケート調査を行っている。アンケート調査をした受診者が、胃がんリスク層別化検査の結果を受け胃がん検診の受診行動に変化はあったのか受診歴を調査したので報告する。

**【対象と方法】**対象は、平成23年4月から平成25年3月までに当センターの人間ドックで胃がんリスク層別化検査を受けアンケートに回答した365名。リスク判定の内訳は、A群184名、B群99名、C群72名、D群10名であった。アンケート調査後の平成25年4月から平成30年3月までの5年間の胃がん検診の受診歴・除菌歴を調査した。

**【結果】**アンケート後、当協会の胃がん検診を5年のうち1回以上受診したのはいずれの群も80%台であった。そのうち5年間継続して胃がん検診を受診したのは全体で121名(40.3%)であった。検査項目別で見ると比較的胃がんのリスクが高いC群D群の胃内視鏡検査の受診率は平均41.0%であった。また、5年間の間に除菌した人は58名(17.4%)でA群3名(5.2%)B群32名(55.2%)C群23名(39.7%)であった。胃がんリスク層別化検査を単独で受けた29名中、その後も胃がん検診を受けていない割合は、A群75%、B群37.5%、C群28.8%、D群100%であった。

**【考察】**胃がんリスク層別化検査の結果を受けた後の各群の胃がん検診受診率に差はなかった。除菌歴で見るとA群でも、除菌したケースがあり、偽陰性であったことが考えられた。また、胃がんリスク層別化検査単独で受けたA群は、その後も画像検診を受けない割合が高く、A群であったことに安心している人がいると考えられる。

胃がん検診の継続受診はもちろんのこと、今後は、除菌後や胃がんリスク層別化検査(ABC分類)単独検査受診者などへの検診受診の重要性を指導・啓発していくことが必要である。